

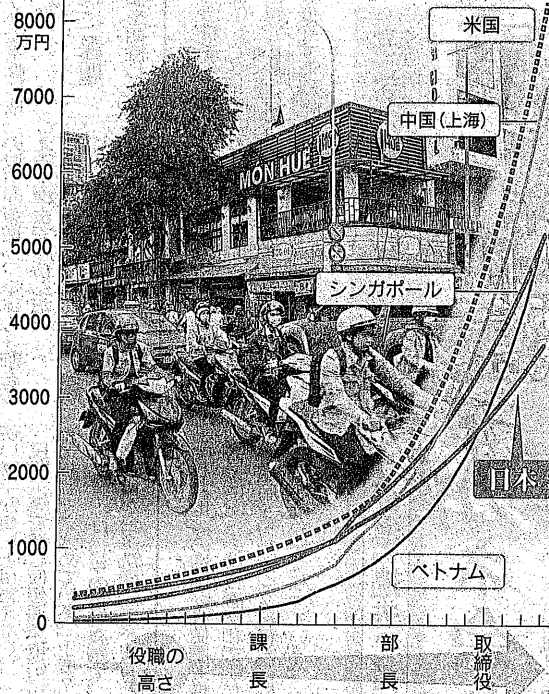
日本経済新聞

日曜版

NIKKEI

2017年 8月27日 (平成29年)

日本の給与は役職が上がるにつれ海外に抜かれる



(注) 米マーサーの調査による

中国やシンガポールでは部長の給料は平均2300万円、2400万円、日本は2千万円に届かず、取締役はベトナムにも抜かれる。企業が支払う給与・報酬を国別にみると、役職が高くなるほど海外が日本を上回り、格差が広がる。若手から課長まではアジア各国を上回るものの、部長・取締役では抜かれる傾向にある。高度な技術や経験を持つ人材の獲得競争が世界的に激しくなるなか、「買ひ負け」リスクも指摘されている。

人事コンサルティング大手の米マーサーが世界125カ国の2万5千社、1500万人以上の2016年度の報酬(予定額を調べ、平均を替へ)で日本円換算した。日本企業も自動車や家電など上場企業を中心に264社を調べた。対象の多くが大手で金額は高めに出る傾向がある。

各国の現地企業、外資企業を合わせた部長級の年間の平均給与(額面ベース)をみると、シンガポールが2412万円、中国(上海)は2340万円となる一方、日本は1981万円にとどまる。課長の平均給与は日本(1022万円)がシンガポール(1008万円)や中国(668万円)を上回るのが対照的だ。日本の人件費は全体としてはなお高い。日本貿易振興機構(JETRO)の直近調査によると、一般的な工場労働者の賃金は東京で月額2万3397円(対し、上海は1万5887円)に達している。

役員給与、アジア勢が上

	部長	低位の取締役
米 国	2870万円	4874万円
中国(上海)	2340	4089
韓 国	1834	3043
ベトナム	1507	2803
ドイツ	2048	2762
日 本	1981	2713
タイ	1448	2418

(注) 大手企業中心の調査

「海外は稼げる花形事業の責任者により多く払う」という。取締役になるまで差はさほど広がる。日本では低位の取締役の報酬は2713万円だが中国は4千万円を超えシンガポールも2800万円が支払われる。ベトナムの2803万円にも抜かれる結果となった。部長までは日本を下回る韓国も取締役は超えている。

アジアの企業は厚待遇を用意して人材を引き付ける。ハ木一之さん(59)は16年10月に三井物産から中国の長城汽車に転じた。今はグループ会社の董事総経理として北京で働く。「長城汽車の魏建軍重

高い役職ほど格差

マーサージャパンの栄立士志コンサルティングは「海外は役割の大きさに応じ惜しみなく給与を配分する」と指摘する。日本は同じ部長職なら主力部門から間接部門まで給与水準をそろえる傾向があるが「海外は稼げる花形事業の責任者により多く払う」という。

取締役になるまで差はさほど広がる。日本では低位の取締役の報酬は2713万円だが中国は4千万円を超えシンガポールも2800万円が支払われる。ベトナムの2803万円にも抜かれる結果となった。部長までは日本を下回る韓国も取締役は超えている。

人材獲得、競り負けも

事長は日本の企業文化を学びたいという姿勢が強い(ハ木さん)という。60歳を超えても報酬は三井物産時代と遜色ない見通しという。日本企業の定年後の再雇用での給料維持は難しい。年齢に応じて報酬が決まる硬直化した制度は人材獲得の足かせになる。

マーサーの調査は国別だが日本企業の海外法人でも役職が高くなるほど給与が伸び悩む傾向が見える。例えば上海の各社の報酬を比べると日本企業の部長給与は1800万円、中国企業(2012万円)、日系を除く外資企業(2394万円)より低い。課長になりたての頃は日本企業、中国企業、日系を除く外資ともに350万円、400万円と大差はなかったが、役職の上昇とともに格差が広がる。

賃金理由に転職

日本の電機大手から上海の半導体メーカーに移り、転職支援も手がける男性は「日本人が海外へ転職すると年収が2千万〜3千万円になることも多く、3倍に増えることもある」と話す。給与水準の差が日本企業の人材獲得の妨げになることもあるという。ただ短期間に技術やノウハウを得た後に退社を迫る「使い捨て」の事例もある。

英人材大手ヘイスによると賃金理由に転職を考える人は増加傾向にある。台湾の人工知能ベンチャーに勤める30代男性の年収は1千万円を超えた。3年前まで勤めた某大企業が大きく成果を残した分だけ個人に還元される」と話す。

人口減少で日本国内の市場が縮む中、日本企業のグローバル化は加速する。製造業だけでなく金融やサービス業でも世界各地で競争は激しくなり、企業の盛衰を分けるようなマネジメント層となる人材の需要は高まる見通しだ。

しかし、十分な報酬を示さずに人材獲得競争で勝ち抜くのは難しい。成果主義を徹底するだけでなく、上に厚い制度への見直しも必要になってくる。(安西明秀)

中国4000万円、日本2700万円